ハンドマイク街頭演説原稿例　憲法９条生かした外交を

二〇二三年二月十四日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、岸田自公政権はいま、敵基地攻撃能力を新たに持つことなど、自衛隊の軍事能力を思いっきり強めようとしています。他の政党やマスコミの多くは、このための財源をどうするか、この問題ばかりに注目しています。でもみなさん。財源について考える前に、そもそもそんな軍事能力拡大が必要なのか、やるべきなのか、そこを突き詰めて考える必要があるのではないでしょうか。日本共産党はこの立場で、国会論戦にのぞんでいます。日本共産党の国会論戦を通じて、岸田政権の軍事拡大がとんでもなく危険であることが、次々と明らかになっています。

　日本政府が持とうとしている敵基地攻撃能力は、相手国の攻撃が届かないところからミサイルを打ち込むというものです。そのために射程距離の長い、そして音の速さより何倍も速いスビードで飛ぶミサイルを導入しようとしています。こんな攻撃的な武器を日本が持ったら、他の国はどう思うでしょうか。これまで日本政府は、他国に脅威を与える兵器を持たないと明言していました。岸田政権の大軍拡は日本政府のこれまでの立場を投げ捨て、日本が外国にとっての軍事的脅威になろうとするものです。戦争をしない、戦力を持たないと明記した日本国憲法の立場と正反対であり、断じて認めるわけにはいきません。

　みなさん、敵基地攻撃能力を日本が持った時にもっとも危険なことは、相手国への先制攻撃もやると堂々と明言しているアメリカと一体に、他国を先制攻撃してしまうことです。岸田首相はアメリカの「統合防空ミサイル防衛」、ＩＡＭＤに参加しないと言っていますが、アメリカ側は同盟国の参加を求めています。日本の自衛隊がＩＡＭＤに組み込まれ、アメリカ軍と一緒に他国を先制攻撃する可能性が大変高いと言わざるを得ません。

　しかも、浜田防衛大臣は日本共産党の質問に対し、日本が安保法制・戦争法に基づいて集団的自衛権を行使した場合、相手国から攻撃を受け、大規模な被害が生じる可能性があると認めました。敵基地攻撃能力は集団的自衛権の行使として使うことがあると、「安保３文書」で明記しています。これでは敵基地攻撃能力を持ち、使うことによって日本を守るどころか、日本に戦争を呼び込むことになってしまいます。

　みなさん、こんな危険な軍事力強化、敵基地攻撃能力の保有は、日本には必要ないのではないでしょうか。日本共産党は、軍事力で相手をおどすのではなく、憲法９条を生かした平和外交、もめごとを話し合いで解決する外交力を発揮することこそが、日本の進むべき道だと考え、そのための提案もしています。岸田政権の大軍拡を許さないという声を、ご一緒にあげましょう。

　この機会に日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）